

京の銭湯

岩田 良弥

(2012 年度入学 5 期生)

1 銭湯の歴史

日本では、古来より蒸気を利用した蒸し風呂で体を温め、疲労を回復させる文化があった。そして飛鳥時代に仏教が伝来すると、寺院の僧侶が身を清めるための浴堂が造られた。これが庶民にも施浴として開放されるようになり、入浴文化が広がったとされている。鎌倉時代以降は、町中に「湯屋」が増え、入浴がより身近なものになった。江戸時代になると、2 階が休憩室として利用されるなど、銭湯は庶民の娯楽や社交の場として定着していった。京都では戦禍を免れたこともあってか、築 70 年、80 年、中には築 100 年を超える歴史ある銭湯を京都の町の至る所で見ることができる。

2 京の湯文化

京の湯文化の始まりは、医療知識が不十分であった奈良時代。木津温泉の源泉でシラサギが傷を癒しているのを見た僧侶の行基が、温泉にケガや病気に効能があることを発見したと言われている。奈良時代から京都の温泉には歴代の天皇や戦国武将が訪れており、各地にゆかりの湯が存在している。また、彼らが残した伝説も語り継がれており、禅寺では食堂や禅堂と並び浴堂が境内に造られ、僧侶の修行が行われていた。

(1) 八瀬かまぶろ



八瀬かまぶろは日本の風呂の原型とされている。かま風呂は日本古来のサウナであり、約 1300 年前壬申の乱で流れ矢を背に受けた大海人皇がが京都・八瀬で傷を癒やすために利用したと言われている。かま風呂を利用するときに湯帷子という単衣を着用したことから浴衣という言葉が生まれた。また、浴室は床の隙間から蒸気が出るサウナ式となっており、直接座ると熱いため、床上に敷いた布が後に風呂敷の語源となった。

(2) 五右衛門風呂

安土桃山時代の 1594 年、豊臣秀吉の命により京都の三条河原で、盗賊の石川五右衛門とその母、子供を釜ゆでの刑に処した。その時に使った風呂桶が名前の由来とされている。鉄製の桶の底は直火のため、触れると火傷することから、木の踏み板を敷いたり、下駄を履いて入浴していた。



(3) 妙心寺 明智風呂

1587 年、今は廃寺となった妙心寺塔頭・太嶺院の僧侶で、明智光秀の叔父・密宗が、光秀の菩提を弔うために建てたとされることから、明智風呂と呼ばれている。昭和初期まで使われており、京都で唯一、年間を通じて見学ができる浴堂である



3 京の銭湯の特色

現在、京都市内だけでも営業している銭湯は約 150 軒あり、その中には伝統的な京町家など、歴史ある建物を使用しているところも数多くある。それらの京の銭湯には以下の特色がある。

(1) タイル絵

伝統ある京都の銭湯では、タイル絵を中心とした銭湯壁面を楽しむことができる。また、浴室や脱衣場の壁面、さらには浴槽の中に描かれている物もあるなど、至るところが彩色豊かでモダンなデザインのタイルで埋め尽くされており、これは京都の銭湯独自の様式と言える。



(2) 脱衣カゴ



京都では衣服を入れた脱衣カゴごとロッカーに入れる習慣が見られ、中には昔ながらの柳行李(やなぎごうり)を使用し、屋号や個人名が書かれたものを置く銭湯もある。内風呂がまだ一般的ではなかった昭和の中頃までは、銭湯は混雑していて、ロッカーが空くの待つことしばしばあった。空きを待っている人のために、ロッカーの前で着替えをせず、ロッカーから籠を引き出して、次の人に譲ることができるようにという配慮からこの作法がうまれた。

(3) のれん

せっけんメーカーが取引先の銭湯に宣伝媒体としてののれん配っていた。地域によってのれんのサイズも様々で北海道型・京都型・大阪型・東京型などがある。京都型は、男女2枚に分かれ、丈が長く真ん中に切れ目が入っているのが特徴である。



(4) 地下水

京都の銭湯の多くに井戸があり、地下水を沸かして使用している。地下水を利用した水風呂を設置している銭湯が多いことも、名水に恵まれた京都ならではの特徴である。

(5) 看板



入り口に「本日あります」と書かれた札状の看板が掛けられていることがある。昔、お風呂を沸かす材木が不足していた時代の頃、木材があるときだけお風呂を沸かしていた。つまり、「今日あります」は「今日、木材がありますので、営業します」という意味で、銭湯が営業しているかどうかを判断するものだったとされている。

まとめ

銭湯の歴史と京の湯文化は、日本の伝統と文化を象徴する重要な要素である。また、歴史ある銭湯の建築や特色は、そのまま京都の風情や人々の暮らしを反映している。これらの伝統や独自の文化、歴史は、今もなお受け継がれ、銭湯を訪れる人々に愛されている。これからの時代においても、この貴重な文化が守り続けられ、未来へと続いていくことを願う。

(参考文献)

第六十五回 京の銭湯

https://www.okeihan.net/navi/kyoto_tsu/tsu201309.php

第八十三回 京都の湯

https://www.okeihan.net/navi/kyoto_tsu/tsu201503.php